

徳島県阿波市地域（人口34,713人、空き家率は13.5%）で将来空き家を持つ高齢者を対象に、「住まいの終活」に特化し、自分の死ぬ準備としての終活を”住まいの終活”をテーマの中心にセミナーを実施、協働周知を目的にアンケートとセミナーを実施。

## ■ 事業概要

事業部門	部門3 ポストコロナ時代を見据えて顕在化した新たなニーズに対応した総合的・特徴的な取組を行う事業
事業地域	徳島県阿波市
背景・課題	<p><b>背景：</b>                  「おひとりさま」終活は、身寄りのない場合や遠方の親類縁者がいるが住宅に関しては何も決め事ができない場合も多い。特にコロナ禍では遠方の親類縁者と十分に相談ができず、地元に着した当法人が終活の相談を受け、その中で住宅についての相談を受けることも多くなってきた。そこでまだ空き家になってない(住んでいる)家について、終活の観点から”住まいの終活”に特化したアプローチ。</p> <p><b>課題：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンクにデータが届く状態になるまでに時間を要した場合、利用するためのコストがかかる</li> <li>・「有効活用ができる空き家」を高齢者世代の人と共に考えていく必要がある</li> <li>・終活や「死」という言葉がまだタブー視されている</li> <li>・明確に家族間での”住まいの終い方”についての話ができてない</li> </ul>
目的	「自分がなくなる前の段取りとしての、住まいの終い方」に特化したアプローチで「有効活用ができる空き家」のデータ化。高齢者が自ら考え、同世代の人たちと話題にするための協働周知(アンケート調査、セミナー、相談窓口、広報)
連携する団体・役割	アライブラボ（全体管理運営）、株式会社ザップクラブ（広報ツール作成）、阿波市（協働周知）

## 取組内容

- ①協働周知（フリーペーパー、広報誌、サイトSNS）
- ①専門家連携体制構築
- ②相談窓口スキルアップ
- ③アンケート実施
- ④終活セミナー実施（3回）住まいの終活
- ⑤相談実施（セミナー後個別対応、直接相談対応、電話）

## 成果の概要

実際に空き家になった後の、空き家の出口戦略はたくさんあると思うが、私たちは普段から終活についての事業をおこなってる。『空き家』にさせないアイデアとして提案した。

自分の『死』と向き合うことによって、今住んでいる大事な家を『空き家にしない方法』を高齢者が元気なうちから考えて生活することが大事な視点。子どもや周りから、親に今住んでいる家はどうするのかとの提案はし難いと思うので、持っている自分が将来空き家になる可能性の家（＝プレ空き家）を自分発信で家をどうするかを考えるきっかけになった。



終活セミナー、アンケート調査（高齢者サロン）、関係者スキルアップ



WEBサイト・SNS (Instagram、Facebook)